

【連載】日本の軍事力の実態 その3 「空の神兵」サマワへ派遣

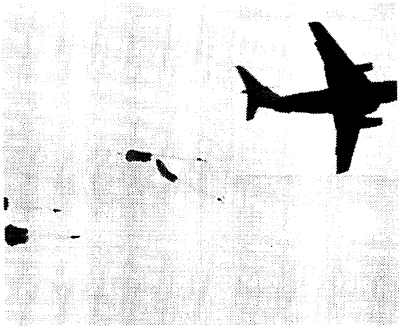
—陸上自衛隊のイラク撤退と関連して—



第5次イラク復興業務支援隊約一〇〇人が1月6日に、第9次イラク復興支援群約五〇〇人が1月29日、2月4日・13日にそれぞれ派遣された。首都圏防衛を任務とする陸上自衛隊東部方面隊の第1師団を中心とする部隊の初の海外派遣である。

関東地方が8年ぶりの大雪で埋もれた1月21日、千葉県船橋市にある習志野駐屯地でイラクに派遣される隊員約一七〇人の壮行会が行なわれた。空挺団長の木野村陸将補は「両肩に日本を背負って

いることを忘れず、厳しい条件下でも最後まで復興支援群の仲間を見捨てないという気概をもって臨



（C-1輸送機からの第一空挺団の降下。昨年11月、岐阜基地航空祭で）

んでほしい」（朝日新聞）と訓示した。派遣部隊の約3分の1の人員を空挺団で編成したことがこれまでのイラク派遣部隊との違いを際立たしている。

空挺団とは、約一五〇〇人からなる日本で唯一の落下傘部隊で「精鋭無比」の最強部隊といわれる。飛行機やヘリコプターで敵陣のただ中や背後に強襲降下し軽武装で戦況を自軍に有利に展開させる役目を任務としている。「空の神兵」ともてはやされた旧陸軍挺身隊は、一九四二年スマトラ島（インドネシア）パレンバン油田と飛行場を空挺作戦で侵攻している。

空挺団が最強といわれる理由のひとつに全隊員の約7割が「空挺レンジャー」の有資格者であることにある。陸上自衛隊の「レンジャー」資格とは、約2ヶ月におよぶ過酷な野外機動・戦闘訓練過程をこなした者だけが得られる「最強兵士」の証明である。「空挺レンジャー」課程はさらに過酷な訓練であることが知られている。

なぜ一七〇人も空挺団が派遣されたのか？ それは陸上自衛隊がイラクから撤退するためである。新たに約一一〇〇〜一二〇〇人の補給や輸送専門の「撤収支援

隊」（仮称）をクウェートとサマワに派遣して撤収作業を開始、全てをクウェートに引き揚げた後、帰国させるという計画がある。武器弾薬など持ち帰るべき資材・装備品はコンテナ四〇〇個以上になるといわれる。サマワとクウェートの距離は約四〇〇キロ、1日の輸送能力をコンテナ40個として、往復に2日かかるため移動に最短でも3週間が必要となる。2月25日ロンドンでの日米英豪4カ国の外務・防衛の実務者協議で英軍と自衛隊のイラク撤退が明らかにされた。撤退時期は小泉首相が最終判断をする。

撤退が決まれば警戒が手薄になり攻撃を受ける危険性が最も高くなるため警護をより強化する必要がある。英軍が治安維持を受け持ち豪軍が護衛につくとはいえ、撤退のための物資輸送と手薄になる宿営地の警護が空挺団の任務である。今後、治安状況が悪化するに伴い警護要員の追加派遣も予想される。さらに6月以降の酷暑の季節に撤退がずれ込む場合、第10次復興支援群派遣の可能性が出てきた。警護の任務は空挺団になると思われる。

3月1日北部方面隊（北海道）にイラク派遣に向けた編成準備命令が発せられた。空・海自衛隊のイラク派遣はいまだに出口の見えぬまま続いている。（T）

（見出し中のカットは第一空挺団の章）